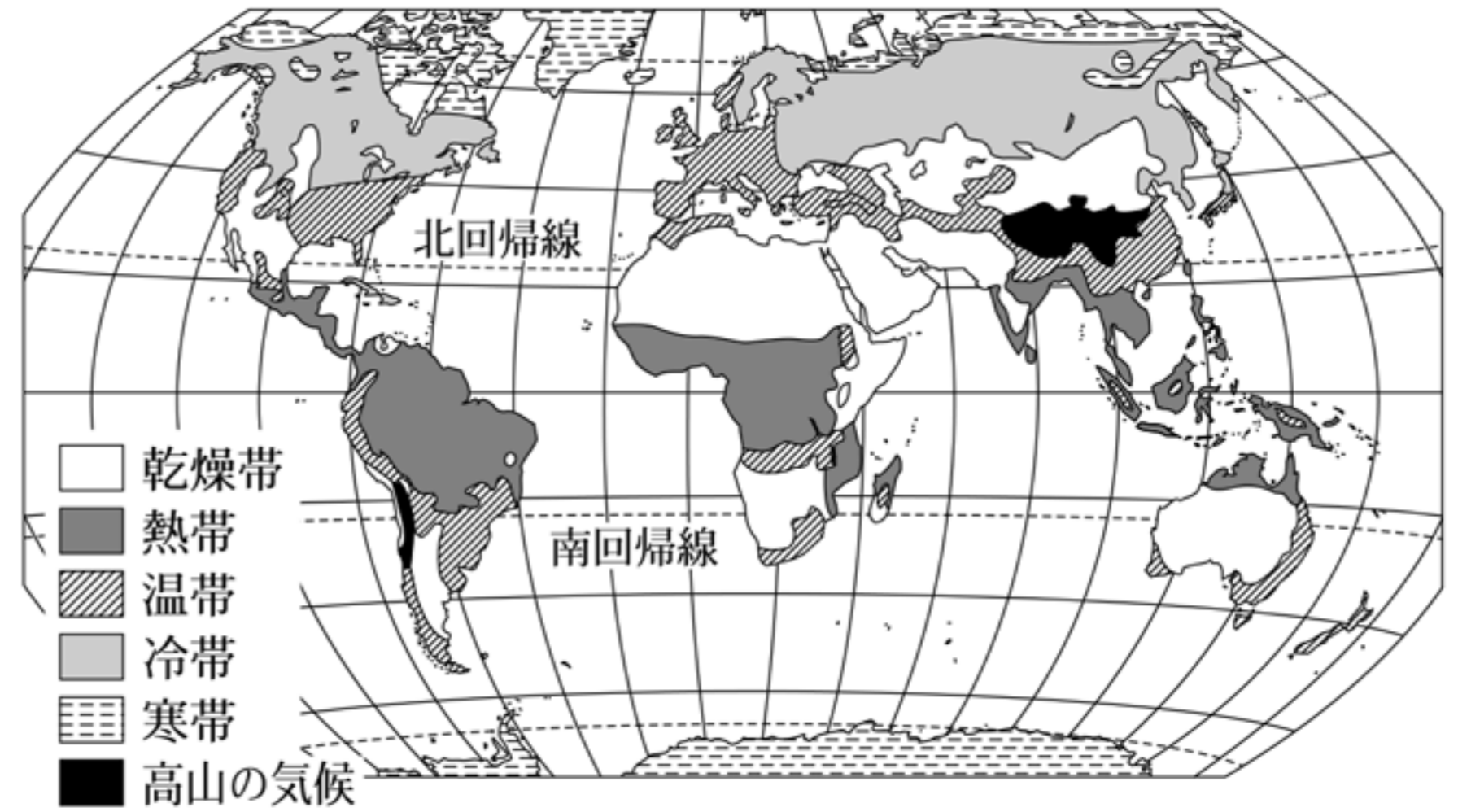


# 1 自然と人口

## 世界と日本の気候

現在、一般に、世界の気候は熱帯・温帯・冷帯（亜寒帯）・寒帯・乾燥帯の5つに分けられます。日本は、北海道は冷帯、そのほかの地域は温帯に属しています。

地球は誕生して以来、寒い時期と暖かい時期をくりかえしてきました。寒い時期には、現在の寒帯から温帯にかけての広い範囲が、氷河におおわれていました。地球が暖かくなるとこの氷河の氷がとけるため、海水面が上昇します。



▲世界の気候帯

※ 「高山の気候」は、標高が高いことによって、本来、その地域に広がる気候帯の気温よりも低い気候です。

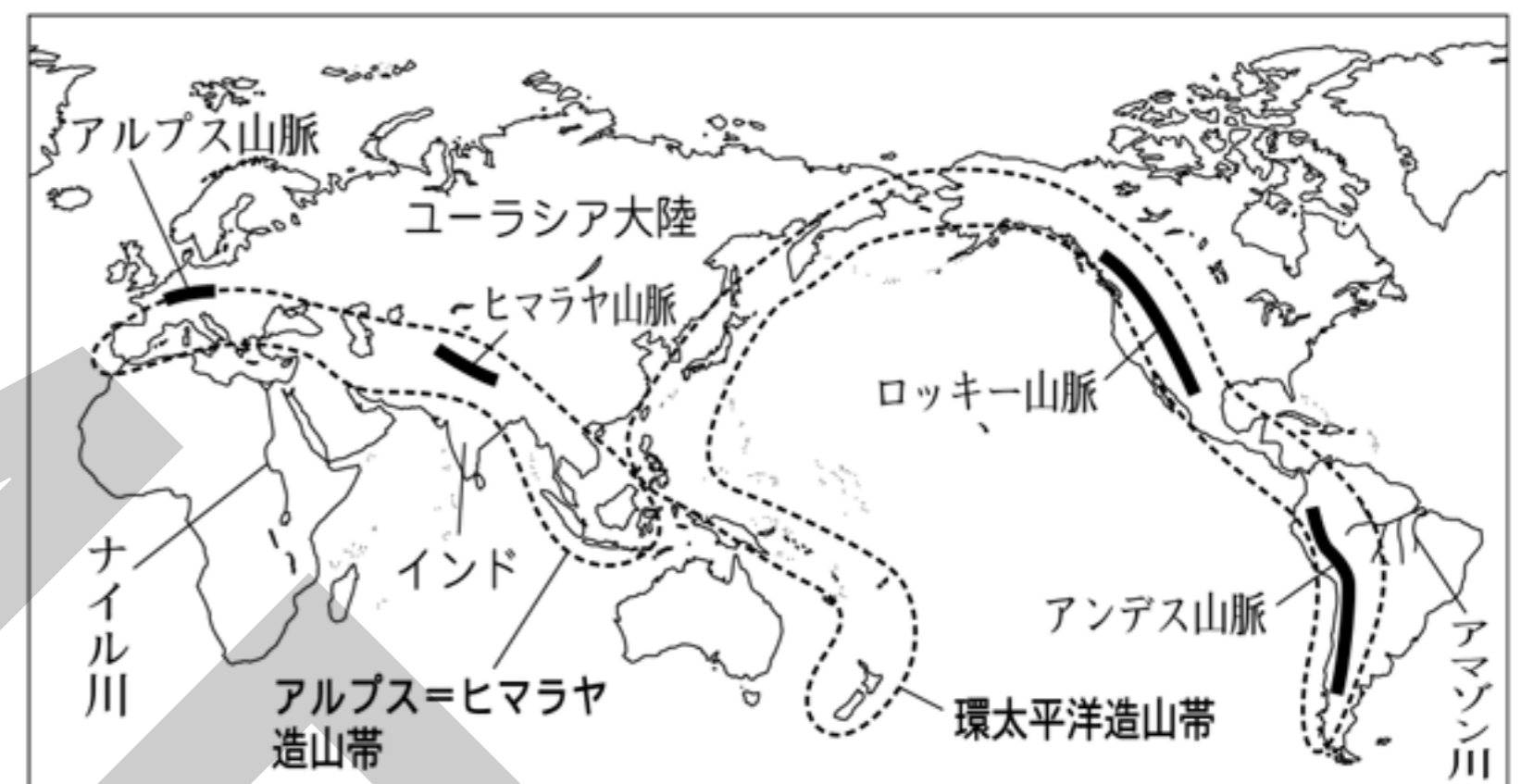
## 世界と日本の地形

地球の表面の約29%が陸地となっており、わたしたちはおもにこの陸地で生活をしています。陸地には、険しい山が連なる地域と、平野が広がる地域があります。

険しい山が連なる地域には、環太平洋造山帯とアルプス＝ヒマラヤ造山帯があります。日本列島は、環太平洋造山帯にふくまれます。このような地域は地震などによる災害に見舞われることがあります。

では、険しい山はどのようにしてできたのでしょうか？ ヒマラヤ山脈にある世界で最も高いエベレスト山（8848m）の山頂付近では、かつて海底にすんでいた生物の化石が発見され、そこは昔、海の中だったことが分かりました。これは、大昔、今よりも南の方にあつたインドが少しずつ北へ移動してユーラシア大陸にぶつかり、そのあとも北へ動こうとする力が働きつづけたことで、海底が押し上げられてユーラシア大陸とインドの間に険しい山ができたためと考えられています。

なだらかな平野の多くは、大きな川の流域に広がっています。世界で最も長いナイル川の河口には大きな三角州が広がっており、世界で流域面積が最も広いアマゾン川の流域にも広い平地が広がっています。日本は、国土全体が山がちのため、平野の規模は世界とくらべると小さくなっています。



▲世界の山地と河川

## 世界と日本の人口

世界の人口は、約72億人です。とくに、中国（約14億人）やインド（約13億人）などアジアの人口が多くなっています。また、働き手としてたくさん子どもを生む必要があつたアフリカでも人口が増える割合（人口増加率）が高くなっています。日本の人口は約1億3千万人で世界でも多い方ですが、近年、子どもの割合がへり、老人の割合が増える少子高齢化が進んでいます。

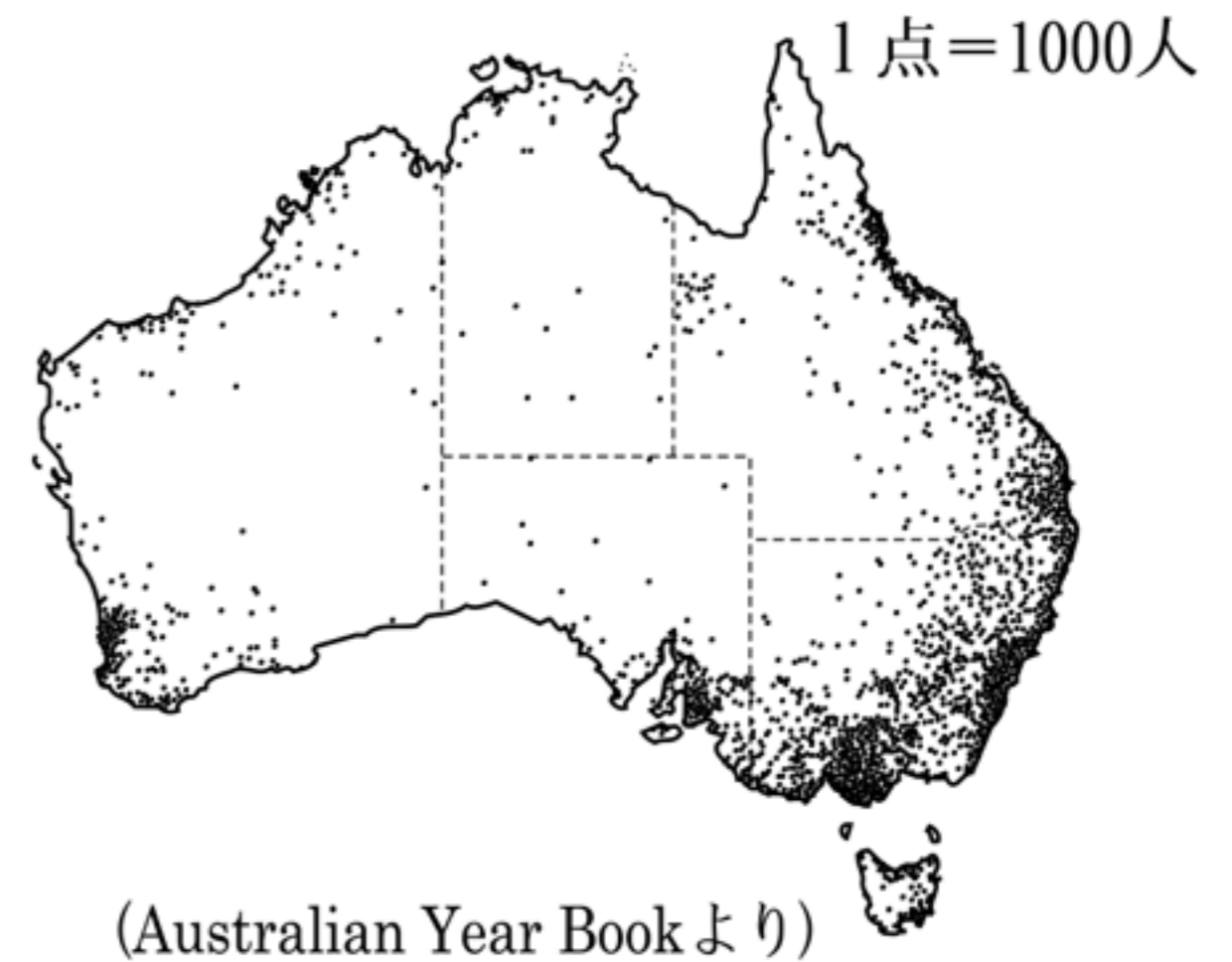
∞ キーワード ∞

●氷河＝一年を通してとけることがない雪（万年雪）がかたまってできた氷のかたまり。

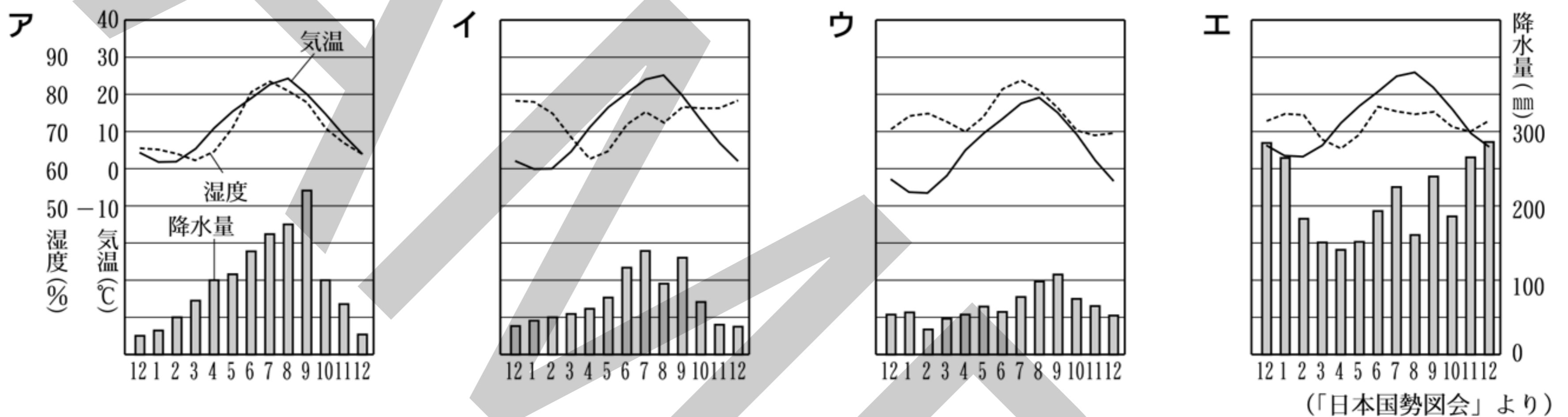
●流域面積＝ある川に雨水が流れこむ範囲のこと。川の支流が多いと流域面積が広がる。

# 練習問題

1 右の地図は、オーストラリアの人口分布を表しています。この地図と、左ページの世界の気候分布を表した地図を見て、オーストラリアの人口分布の特色を、人口が集中しているところと、人がほとんど住んでいないところの両方について答えなさい。



2 次のグラフは、長野市と、ほかの3つの都市の降水量、気温、湿度についてまとめたものです。これを見て、あとの問いに答えなさい。



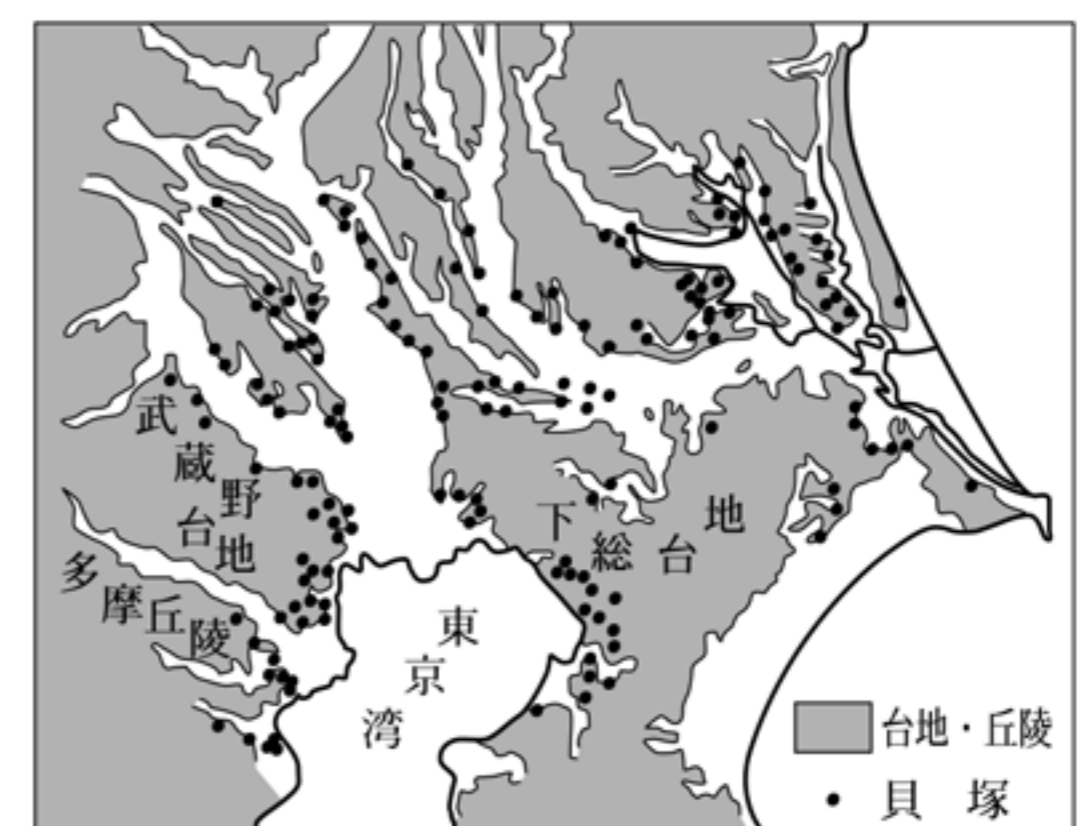
(1) 次の文章は、長野市の気候の特色について述べています。次の文章を参考にして、長野市の気候のグラフをア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

長野市の気候を調べた結果、1年の平均気温は約12度、1年の降水量の合計は約900mmでした。長野市の気候は、春先から夏にかけて乾燥し、冬の間は比較的湿気があります。

(2) グラフア～エのうち、最も北に位置する都市のグラフはどれですか。記号で答えなさい。また、そのように判断した理由を簡潔に答えなさい。

記号 [ ] 理由 [ ]

3 右の資料は、関東地方の貝塚の分布を表した地図です。この資料から、人々が動物や魚の狩猟などによって生活していた縄文時代の海岸線は今とくらべてどうなっていたと考えられますか。左のページの「世界と日本の気候」についての文章も参考にして簡潔に答えなさい。



# 自然災害

新潟県に住んでいる結花さんは、鹿児島県のおじさんの家に遊びに行きました。次の会話は、結花さんとおじさんが、大雨のニュースを見ていたときのものです。

結花さん：きのうからたくさん雨が降っているけど、大丈夫かなあ？

おじさん：鹿児島県は、雨がたくさん降って洪水がおこることがあるんだよ。今は、梅雨の時期と重なって台風が鹿児島県の近くを通過しているから、雨も風も強くなってきたね。天気予報では大雨洪水警報が出ていると言っていたから、外に出るときは気をつけないといけないね。

結花さん：警報や注意報が出ていると、みんなが注意できるから便利だね。

おじさん：そうだね。日本は、大雨のほかにも、地震や火山が多い国だから、自然災害がおこる可能性が高い国なんだよ。だから、災害を防ぐための工夫の一つとして、気象庁が注意報や警報を出しているんだ。

結花さん：大雨や雷のとき以外にも注意報や警報が出されるの？

おじさん：地震がおきたときは、大きな津波がおしよせてくる危険性があるから、津波注意報や津波警報が出されることがあるんだよ。

結花さん：そういえば、新潟で大きな地震がおきたときにも津波注意報が出ていた地域があったな。

おじさん：ほかには、大きな火山の噴火があったときに、どれくらいの範囲で火山灰が降るかを予報で伝える降灰予報というのが行われるようになったんだよ。鹿児島県にある活火山の桜島が噴火したときに、この予報が出されたことがあるんだ。

結花さん：新潟県でも降灰予報が出されることがあるのかな？

おじさん：新潟県は、となりの長野県に、火山活動が活発な浅間山があるから出されることがあるかもしれないね。でも、地域によっては降灰予報が出されないところもあるんじゃないかな。

大雨や大雪のような気象予報による警報や注意報も、地域によって出されるさいの基準がちがうんだよ（右の表）。これは、地域の気候や地形などによって、どれくらい雨や雪が降れば災害の危険があるかがちがうからなんだよ。

東北地方では、地震によって土砂災害の危険性が高まったから、大雨注意報・警報を出すさいの基準を引き下げた県があるんだって。

大雪注意報・警報が出される積雪量（24時間）

	注意報	警報
新潟県（平野）	40cm	70cm
鹿児島県（平地）	5 cm	20cm
東京都（23区）	5 cm	20cm
茨城県（全域）	10cm	30cm

（気象庁ホームページより）

∞ キーワード ∞

- 台風**＝日本など東アジア地域をおそう熱帯低気圧のうち、風力の最大が毎秒17.2m以上のもの。強風と豪雨をともない、洪水や土砂くずれなどの災害をもたらす。
- 気象庁**＝気象庁では、気象の観測のほか、台風や集中豪雨、地震・津波、火山噴火などの自然現象を24時間体制で監視し、予報や警報などの情報をわたしたちに届ける仕事を行っている。
- 津波**＝地震などで、海底がもりあがったり、下がったりすることによっておこる波が陸地におしよせてくること。湾の形が複雑なリアス海岸では被害が大きくなる。
- 活火山**＝おおよそ1万年以内に噴火した火山および、現在活発な活動のある火山のこと。

# 練習問題

1 次の各文章は、左ページの「大雪注意報・警報が出される積雪量」の表と、右下の表から考えられることをまとめようとしたものです。文章中の ( A ), ( B ) にあてはまる文を考えて答えなさい。

【新潟県と鹿児島県の比較】  
 新潟県は鹿児島県よりも ( A ) と考えられるため、注意報や警報が出される基準となる積雪量が多い。

【東京都と茨城県の比較】  
 東京都と茨城県をくらべると、1年のうちで雪が10cm以上積もっている日数は東京都と茨城県ではあまり変わらないが、注意報などが出される基準となる積雪量は東京都の方が少ない。このことから、東京都は茨城県に比べて ( B ) ことが分かる。

**1年のうちで10cm以上雪が積もっている日数**

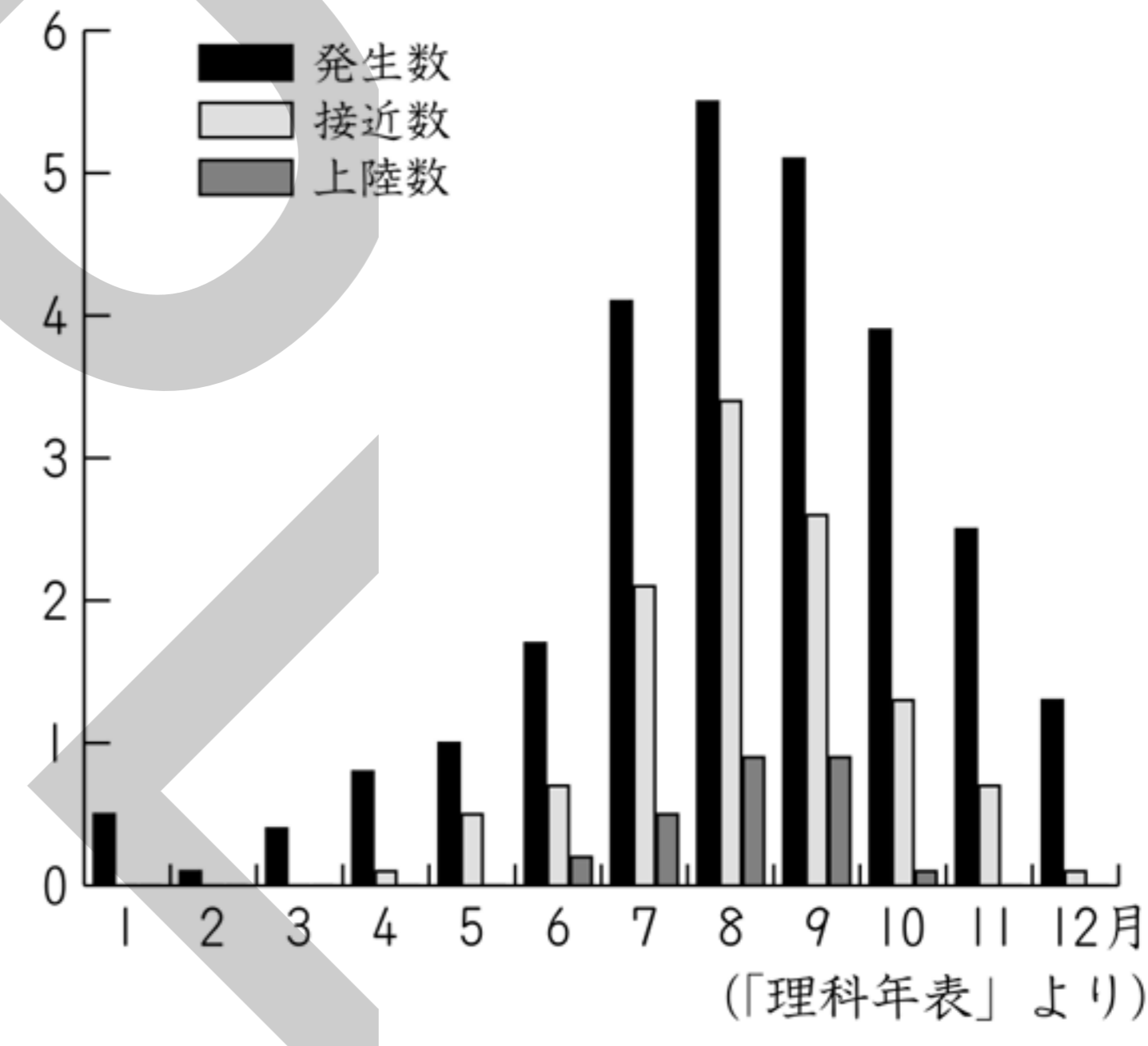
( ) 内は観測地	日
東京都 (東京)	0.8
茨城県 (水戸)	0.7

(「理科年表」より)

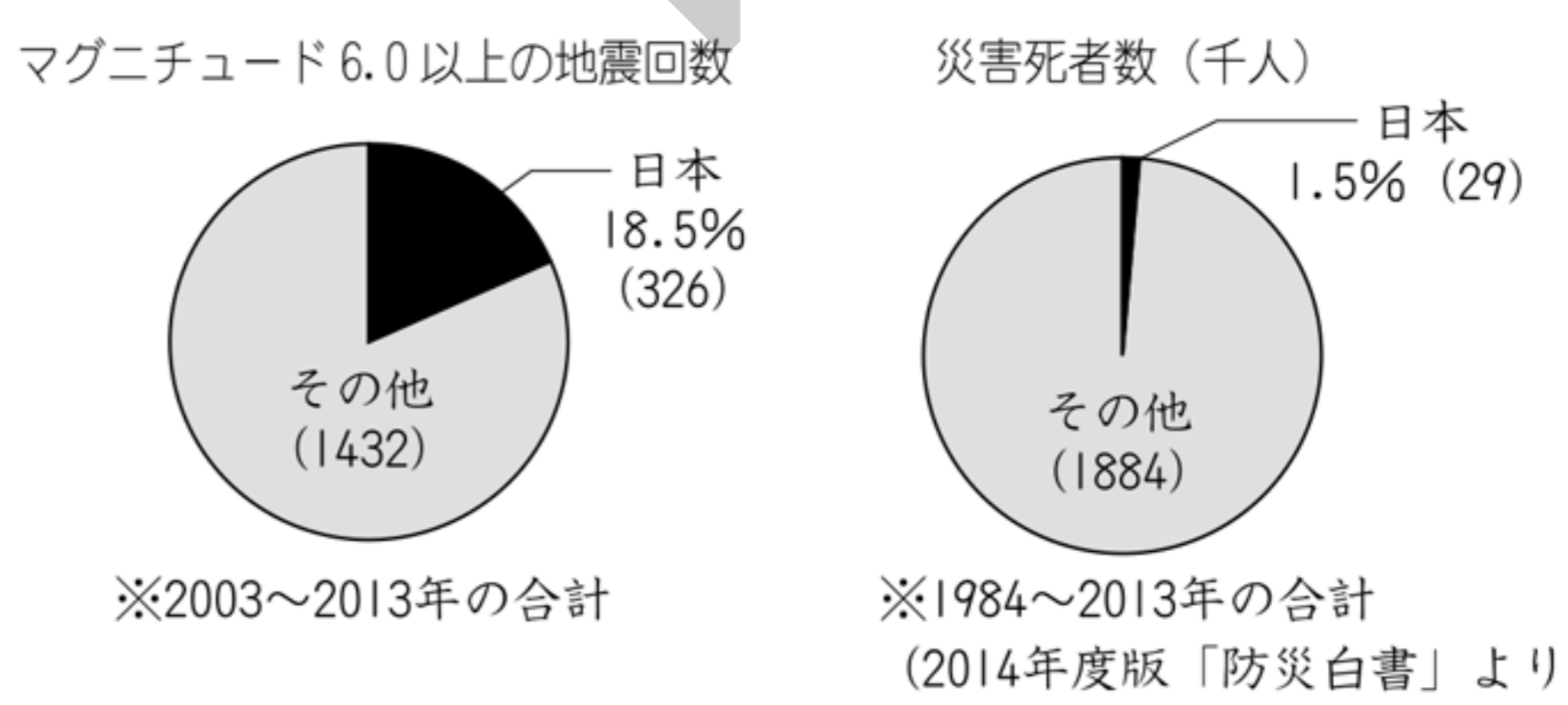
A

B

2 右のグラフは、月別の台風の発生数と日本への接近数、上陸数を表しています。このグラフを参考に、左ページの会話は1年のうち、何月ごろの会話だと考えられますか。そのように判断した理由もふくめて簡潔に答えなさい。

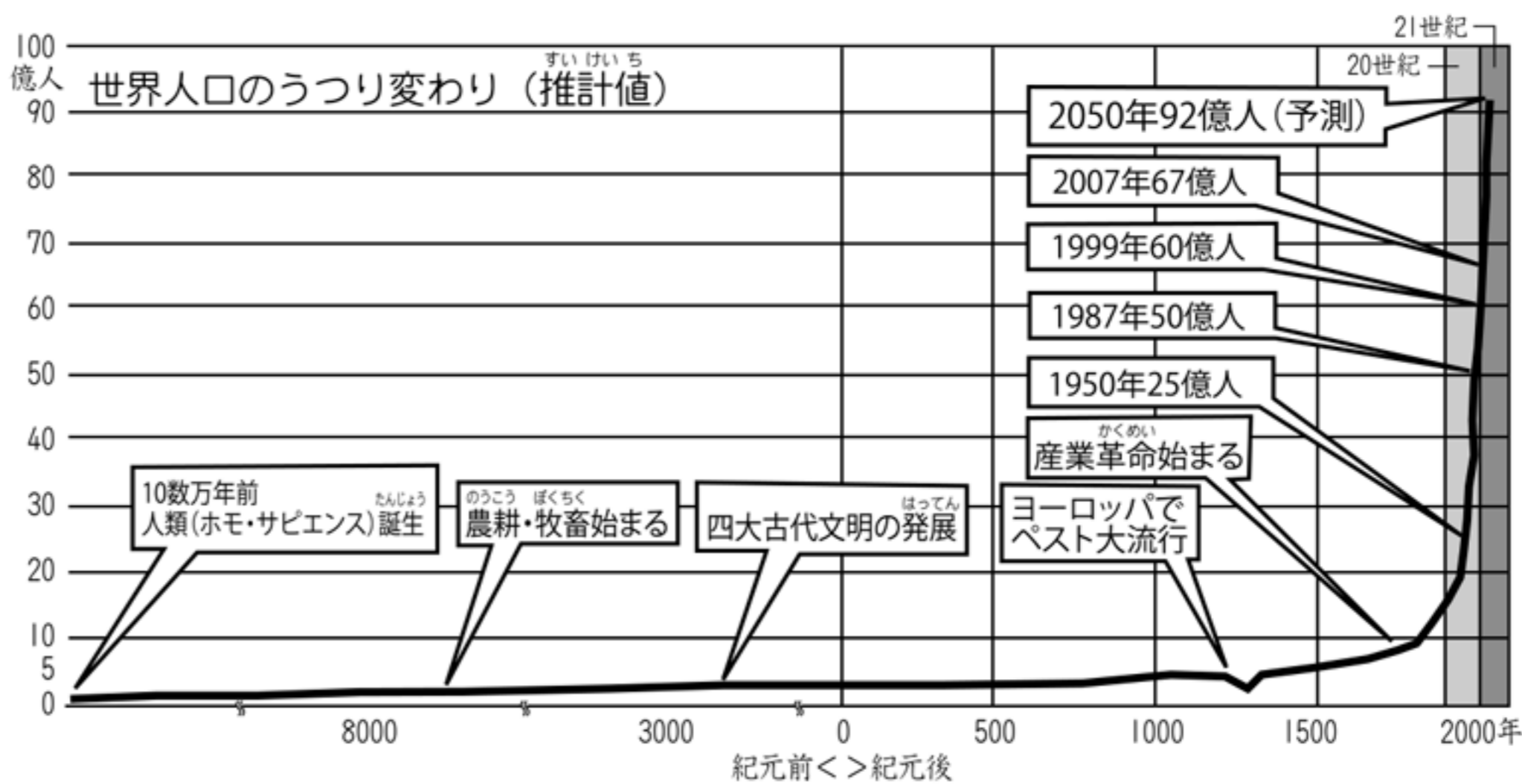


3 右の資料は、世界と日本の災害の比較を表したグラフです。日本は、地震だけでなく大雨や噴火などによる災害が多い国です。このことをふまえて、右の資料から考えられることを簡潔に答えなさい。



# 人口問題

世界の人口は今まで増えつづけており、現在では約72億人に達しています。特に20世紀には爆発的に増加し、20世紀の100年間だけでも40億人以上人口が増加したと言われています。今後も、**開発途上国**を中心に人口が増加していくと考えられています。一方で、日本のように少子高齢化が深刻化している国もあります。



日本やアメリカ合衆国などの**先進国**と、アフリカ諸国などがふくまれる**開発途上国**では、かかえている人口問題はことなります。

## 開発途上国がかかえる人口問題

赤ちゃんが、生後1年未満で亡くなってしまいう割合を示す「乳児死亡率」を見ると、先進国（日本、北アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドの合計）で生まれた1,000人の赤ちゃんのうち、1歳より前に亡くなってしまいう人数は7人です。一方、開発途上国の中でも特に開発が遅れているとされる国々では、生まれた1,000人の赤ちゃんのうち、87人が1歳未満で亡くなっています。死亡率が高い理由はさまざまあります。

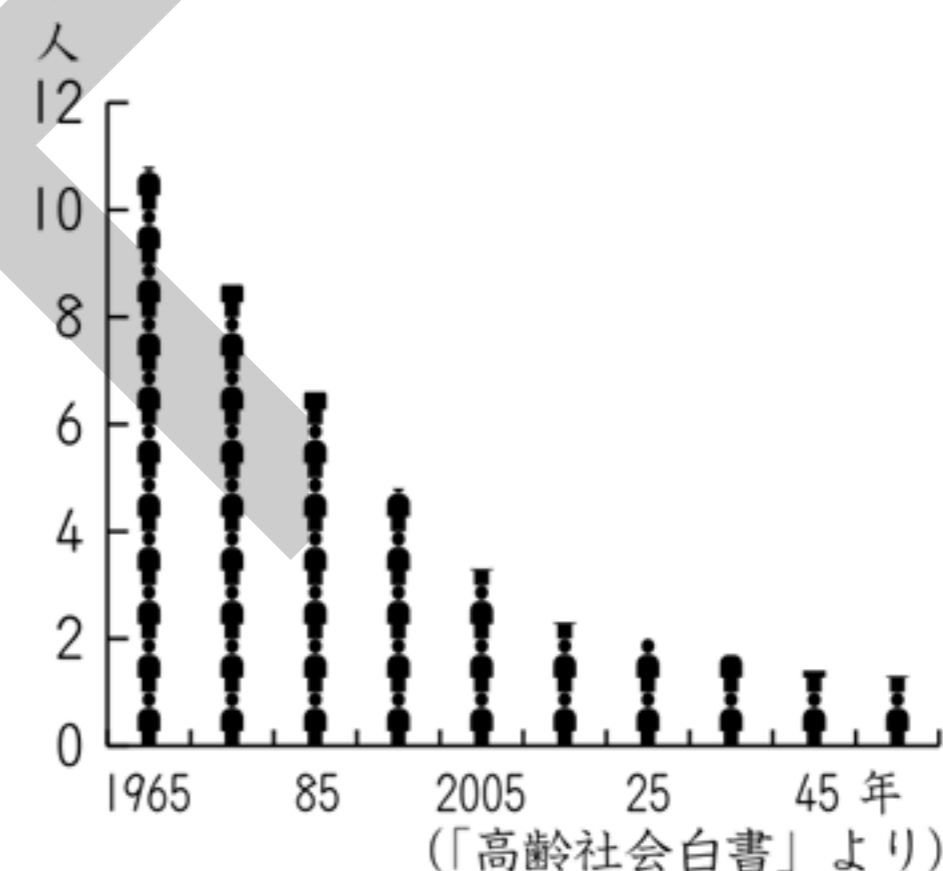
開発途上国では乳児死亡率が高いことから子どもを多くうむ傾向があり、出生率が高くなっています。このほかにも出生率が高い理由として、子どもが貴重な労働力となっていること、社会保障制度の整備が遅れているため子どもに老後の面倒をみてもらおうと考える親が多いことなどもあげられます。

このように出生率が高いまま、医療の普及や安全な水源の確保などによって死亡率が低下すると、その地域の人口は爆発的に増えることとなります。このことを人口爆発とよんでいます。開発途上国には、人口爆発によって食料問題や、働きたくても働く場がないなどの問題が発生している国があります。

## 先進国がかかえる人口問題

日本やヨーロッパ諸国などの先進国では、少子化や高齢化が問題となっています。少子化とは、女性1人が一生の間にうむ子どもの数（合計特殊出生率）が低くなることで子どもの数がへっていくことです。高齢化とは、総人口にしめる65歳以上の人口の割合が高くなっていくことです。これらをあわせて少子高齢化とよんでいます。少子高齢化がすすむと、高齢者の割合が増えていくので、介護や福祉関係に多くの財源を使わなければならなくなります。そうすると、働いている世代の人たちの負担が大きくなります（右の資料）。

日本では、生産年齢人口（15～64歳）を支え手とするとき、高齢人口（65歳以上）を何人で支えなければならないか？



現在と同じ人口規模を保つためには、合計特殊出生率が約2.1必要とされています。しかし、日本は1.41（2012年）とその水準を大きく下回っています。

∞ キーワード ∞

- **開発途上国** = アフリカ諸国や中南アメリカ諸国など、経済発展の水準が低い国のこと。
- **先進国** = 日本やヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国など、経済発展が進んだ国のこと。

## 練習問題

1 右の資料は、日本と、開発途上国の2国に関する統計です。この資料から、開発途上国で死亡率が高い理由として考えられることを簡潔に答えなさい。

	日本	ミャンマー	コンゴ民主共和国
乳児死亡率 (人口千人に対して 人)	3	65	113
医師数 (人口1万人あたり 人)	21	4	1
改善された水源の利用率 (%)	100	78	46
難民の発生数 (千人)	—	191.3	370.4

(「世界人口白書」, 「世界国勢図会」より)

2 次は、国際連合が開催してきた人口に関する会議に関するまとめです。まとめ中の下線部について、開発途上国が反対した理由を、左ページの内容を参考に簡潔に答えなさい。

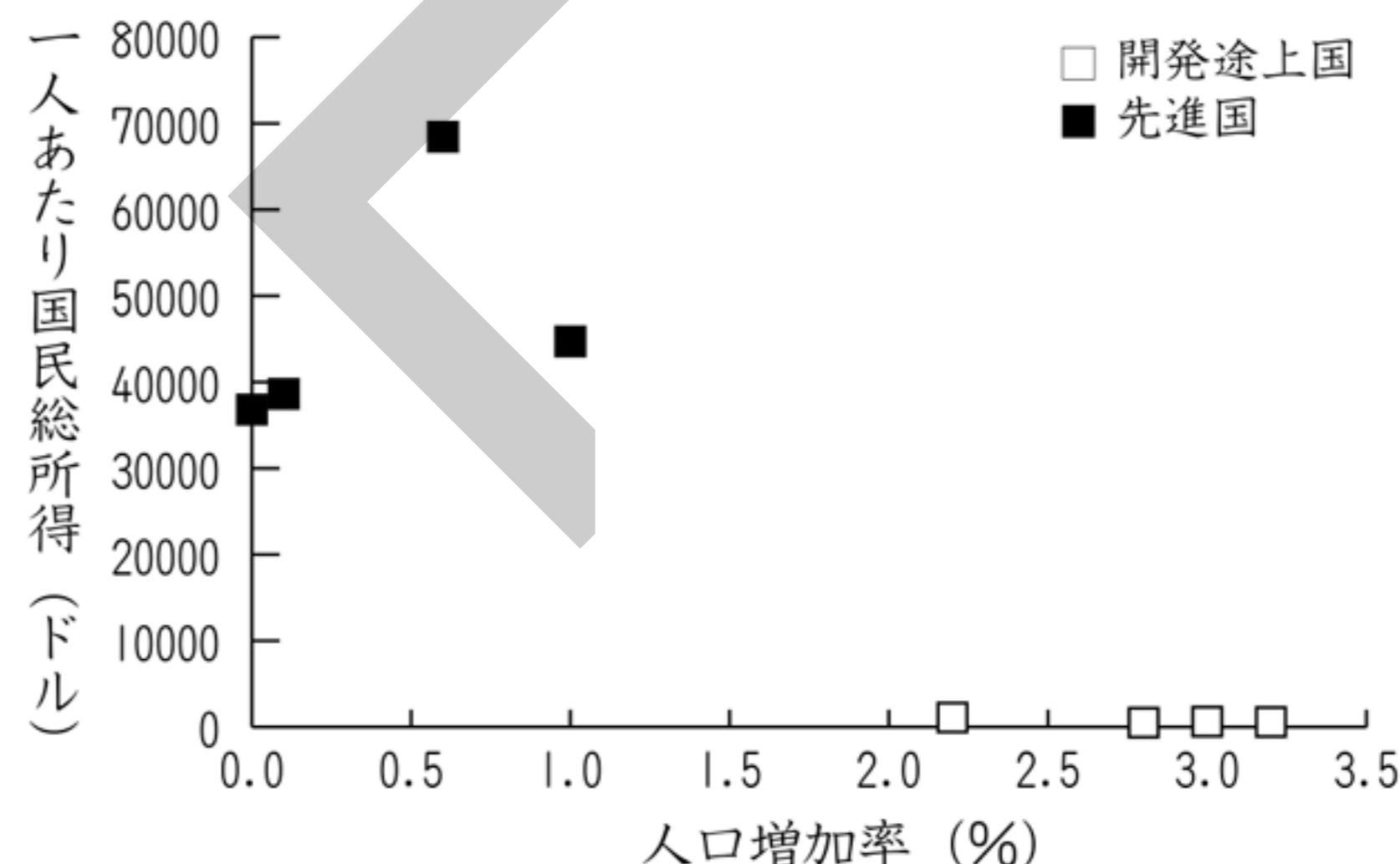
### 人口問題に対する国際連合の動き

- 1974年 ルーマニアのブカレストで第1回世界人口会議が開かれる。人口増加抑制政策をすすめることをもりこんだ「世界人口行動計画」について議論されたが、開発途上国の反対にあって、具体的な提案ができなかった。
- 1984年 メキシコで会議が開かれる。10年前の行動計画の再確認を行う。
- 1994年 カイロで会議が開かれる。貧困の解消や女性の地位向上などをふくめた新しい行動計画が採択された。

3 次の表は、おもな国の一人あたりの国民所得と人口増加率を表しています。また、右のグラフは、この表をもとにして作成したのですが1か国入っておらず未完成です。これについて、あとの問いに答えなさい。

おもな国の一人あたり国民総所得と人口増加率

	一人あたり国民総所得 (ドル)	人口増加率 (%) (2000-06年)
日本	38630	0.1
アメリカ合衆国	44710	1.0
ドイツ	36810	0.0
ノルウェー	68440	0.6
フランス	36560	0.6
ケニア	580	3.2
ナイジェリア	620	3.0
ボリビア	1100	2.2
ラオス	500	2.8



(「世界国勢図会」より)

- (1) 表中の統計を利用して、グラフを完成させなさい。
- (2) 完成したグラフから読み取れることを簡潔に答えなさい。